※表面より続く

このようにみると、人間は生と死とを、反対の現象と思っているから生を喜び死を悲しむのであるが、生も変化、死も変化であるということが分ったら死生を超脱することができると諭されていました。ここに至って私は眼のうろこが落ちた思いでした。そしてわかったことは我々は過去を持ち未来をもって永遠に生きているのであるから、今生きている永遠の一瞬を力一ぱい良く生きなければならないと言うことでした。しかしそうは申しましても凡人の悲しさ、ありがたい不生不滅のみ教えにも、往きつ戻りつする日が多く、拙い自分に恥ぢるばかりです。主人の冥福を願ひ般若心経を読誦し、晩歌らしき歌を作って亡夫と思いを分ちたいとしていた時に朝日寺から高野山参拝のお誘いを受けました。心身共に無理とは思いましたが、役員様方のお世話を頂き参加しました。

○踏みのぼる高野の山の老杉の深き響(こだま)は生死を越ゆる

○奥の院十八町に並み建てる墓碑吹き過ぐる風の声ごえ

○みづからにまとふ雑念払はむと戒壇巡りの人に読けり

○闇見つめ見つめて戒壇紛れなく抜け出でし身に陽光(ひかり)あつまる

○大塔の九輪の天(そら)より降りそむる雪は壇上に燦さんとつむ

○霊場に雪しろがねに輝くをわが身に賜ふ仏果とやせむ

金剛峯寺でごま供養をお受けし、菩薩戒牒を拝受しました。亡夫の供養をお願いして私は晴々とした気持で下山することが出来ました。

○消えがてにまた燃え上がる送り火の身に近ぢかと映ゆる哀しさ

○新盆の祖父に手向くと揚花火幼曽孫(ひこ)らの声にはぢけり

○追悼の読経に畏みかへりゆくみ魂に手向く閼伽の真清水

菩提寺の一堂に会して水祭りが行われました。

○見そなはす薬師如来に法悦の願ひつつ

さに言葉とならず

○諸人の願ひにいらへ給ふる呆けなし

薬師像雨露に耐へます

我われの終の往き着く処は菩提寺朝日寺でございます。ご本尊が薬師如来様であることはほんとにありがたいことです。

心無罣礙　無罣礙故「罣礙なければ恐怖なし。（執(とら)われがなければ怖いことは何もない）」

今は少しでも執着心がとれて心豊かに暮せるように、亡夫への手向として般若心経を心して読誦いたしております。

合掌

ご詠歌中国大会で団体優勝

庄田　金塚敦子

今回私のようなものが、みなさんの中に入れていただいてもいいものか、と思っておりましたが、めでたく優勝させて頂いて本当にうれしくしく思っております。会場の六百人もの人の中、あの緊張と感動は言葉では言い尽くすことはできませんが、今でも、表彰式の時のあの言葉は忘れることができません。

「一位・備前本部」

今までの重い沈黙からあふれ出す思い――あきらめと驚き、そして大きな喜びが、こみあげてくる涙が抑え切れませんでした。何年も忘れていた本当の感動にあったようでした。

ここまでやってこれたのも、励ましてくれた先生とみなさんがいればこそだと思っております。この喜びを忘れることなく、これからも精進して、たとえいつもの私が十二分に発揮できなくても、その時々の精一杯の力が出せるようがんばってゆこうと思っています。

お砂ふみ霊場完成

六月十五日は真言宗を開かれた弘法大師が誕生された日です。高野山ではこの日、青葉祭といって大勢の人が大師音頭にあわせてめぬき通りを踊って歩きます。その吉日に朝日寺では四国八十八ヶ所お砂ふみ霊場の開創法会（わたりぞめ式）が行なわれました。四国八十八ヶ所はお大師さまの開かれた霊場ですが、朝日寺からも昭和五十七年に廻りはじめて以来平成二年で二周し終える事が出来ました。でも考えてみれば四国参りに参加出来る人は限られています。誰もが家を泊りがけであける事は出来ません。ある程度の体力もいります。費用もかかります。誰もがこの条件を満たすとは限りません。そこで参加したくても出来ない人の為に札所のお砂をいただいて帰って朝日寺の境内に安置しようという話が参加者の間から起ってきました。そして二周目の始まった昭和六十二年からスコップとビニール袋を持参して各札所の境内のお砂が集められました。それはもっぱら総代さん方の役割となりました。総代会でお砂の安置方法が話し合われ、一口一万五千円で寄附を依頼する事、名前を石に刻んで永久に残す事が決まりました。結局、総代さんの努力、檀信徒の皆さんのご協力で三四一人の人が計五百九十万円の浄財をご寄附下さいました。坂本石材に工事を依頼しましたが、平成二年九月の大雨による山くずれの為、工事が出来ず、当初の予定より大きく遅れ六月十五日の行事のまぎわにようやく完成しました。行事前日から総代さん、密教婦人会の役員さんによってテントが張られたり、のぼりが立てられたり準備がなされ、当日を迎えましたが、さいわい梅雨の時期にもかかわらず天候に恵まれ朝十時から四国霊場六番の安楽寺の住職さんのお話を聞き、その後、お砂ふみ霊場のテープカット、わたりぞめ、大護摩供養がされ、色々なお接待、福引があったりもして多くの人でにぎわいました。

どこの寺にも例を見ない立派な霊場が誕生しました。一人一人の力が一つに集まればこんな立派なものが出来て、皆が喜べるんだという事が実証された様な気がします。

いつでもどなたでも気軽に参って下さい。幸い寺は県道わきにあります。造ったら終りという事にならない様、生きた霊場として皆様の心をうるおす事を願っております。

高野山参拝

春のお彼岸を間近にした三月十五・六日バス二台総勢八十五名で高野山参拝を行いました。まず大阪の郊外にある信貴山に寄りました。この寺は毘沙門天を本尊とし、国宝の信貴山縁起絵巻などがある大きな寺ですが、特に大阪の商売人達から生駒の聖天さんと共に商売繁昌の寺として信仰を集めています。境内には一金何百万円という寄附石が並んでいました。高野山に着きさっそく奥之院に参拝しました。四国八十八ヶ所を廻っている人にとっては高野山で満願の人も多く、納経所では各自で納経をしていただきました。馴れない手つきの為納経所には迷惑をかけた様です。

遍照尊院で宿泊をしましたが、朝のお勤めの後、住職さんから「世の中はこそ。もこそ。」という話をいただきました。朝食の後あいにくの雨の中、伽藍に参拝、金剛峰寺の内拝をいたしました。珠数屋四郎兵衛でおみやげをたくさん買った後、二階で昼食をとりましたが、この頃から雪が降り出し、見る間に積もり出しました。バスにチェーンをつけ、のそり〳〵下山を始めましたが、下からチェーンをはめず登ってくる車がありました。中に側溝へ車輪を落とし困っている車がありました。バス中の男性陣が降りて車を引っ張り上げると大変喜ばれました。高野山に登って人に感謝される事が出来て気分もよくなりました。ふもとまで降りると雨に変わりました。それだけ高野山が高い山という事でしょう。雪の中大変でしたが、白い雪にすっぽりおおわれた高野山を皆さんに見ていただく事もめったにない事と思い貴重な体験が出来た思いです。

一月十五日 お砂ふみ並に大護摩供養

十時より　お勤め
十時半より　お砂ふみ
十一時より　大護摩供養
ごま木　一本二百円
福引・お接待等有り

つれづれに思う

中東　坂口一海

私は戦前教育を受け、一応の敬神崇祖の概念は承知しているが、戦後の混乱、宗教の自由、仕事の多忙等にかまけて無信心に経過した。おそまき乍ら還暦の頃より仏檀、社寺、墓所等に関心を持つ様になり、それが楽しみにもなって、行きづりの社寺に立ち止まって徘徊する事としている。新聞も法話に関する記事は読み、法事や逮夜の時の法話にも耳を傾けている。無信心者でも除々に信仰の心が出来るのであろう。

最近どこの寺でも特色のある行事を実行されている。会社の営業活動の一端の様なものである。朝日寺も役員諸氏のお骨折りでお砂踏みをされており誠に佳い事であり、四国や小豆島へ行き難い人は是非お詣りされる様お勧めしたい。

拙詠二首

二夕山を越えてお寺へゆきし日よ春の甘茶と夏の「よみあげ」。

お砂踏みの石を伝いて念じゆく八十八ヶの一つ一つを。

墓地造成予定

既存の墓地が一杯となり隣接地に墓地の造成を計画しております。菩提寺を間近に望む場所に便利な墓地をお求め下さい。

既存の墓の移転も結構です。

特別寄附者御芳名

台灯籠一対
庄田　三浦藤作
岡山　川野多喜子
鑿子台修復
岡山　稲葉　眞
前具
庄田　木村芳男
五具足
大土井　児玉道子
経机
岡山　木村美佐子
財銭箱
庄田　近藤倫敏
五十万円
西大寺　秋元章志
（平成二・三年分）

十三仏巡り

十三、虚空蔵菩薩

空の蔵という名のように、お地蔵さんが、大地の恵みを表すのに対して空の恵みを表わします。天は我々に光と雨を与えてくれます。すべてのものは天の恵みがなければ生存しえません。お大師さまは若い頃四国霊場二十一番札所の本堂にこもり虚空蔵求聞持法を修せられました。これは虚空蔵菩薩の真言を百万遍となえる修行ですが、頭脳が良くなりとくに記憶力に優れるという功徳があると言われます。虚空蔵菩薩は右手に剣を左手には宝珠を持っておられますが剣は智恵を宝珠は福徳をあらわしています。